

平成三十一年度

# 浦田定期能 第一回

素謡 弱法師

西行 桜

浦田 保親

浦田 保浩



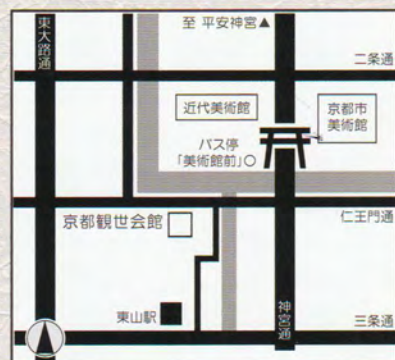
日時：平成31年 3月 16日 (土)

正午開演 (11時20分開場)

於：京都観世会館 (京都市左京区岡崎円勝寺町44)

入場券：前売券 ¥3,500  
当日券 ¥4,000  
学生券 ¥2,000 (全席自由席)

- ◆市バス5・27系統「美術館前」下車
- ◆市バス46・31・201・203系統「東山仁王門」下車
- ◆地下鉄「東山」駅下車、徒歩約5分
- ◆会館東隣に駐車場あり



お問合わせ：浦田定期能楽会 ☎(075)723-6850  
京都観世会館 ☎(075)771-6114

主催：浦田定期能楽会

# 第一回 浦田定期能公演

平成31年 3月 16日(土)

12:00

解説「本日の曲目について」京都府立大学教授 山崎 福之

12:30

## 素謡「弱法師」

俊 徳 丸 浦田 保親  
高 安 通 俊 越賀 隆之

(地謡)浦田 保親・越賀 隆之・片山 伸吾  
樹下 千慧・田中 隆夫・浦田 親良

— 休 憩 20 分 —

仕舞 老 松 深野 貴彦  
笠之段 田中 隆夫  
大江山 深野新次郎

(地謡)越賀 隆之・味方 團・河村 和貴・山崎 浩之

仕舞 俊成忠度 キリ 浦田 親良  
東 北 キリ 杉浦 豊彦  
国 栖 片山 伸吾

(地謡)小野 朗・越賀 隆之・田茂井廣道・河村 和晃

— 休 憩 20 分 —

14:30 頃

## 能「西行桜」

老 桜 の 精 浦田 保浩  
西 行 上 人 福王茂十郎  
花 見 人 森本 幸治  
同 行 者 廣谷 和夫  
同 行 者 是川 正彦  
能 力 茂山千五郎

( 笛 ) 杉 市和  
( 小 鼓 ) 林 吉兵衛  
( 大 鼓 ) 山本 哲也  
( 太 鼓 ) 井上 敬介

(後見)杉浦 豊彦・深野新次郎

(地謡)浦田 保親・味方 團・田茂井廣道・深野 貴彦  
河村 和貴・河村 和晃・山崎 浩之・樹下 千慧

附祝言

終了予定 16:15頃

## 素謡 弱法師 (よろぼし)

河内の国の高安(たかやす)の里にすむ高安通俊(たかやすのみちとし)は、人の讒言(ざんげん)を信じて一子俊徳丸(しゅんとくまる)を追い出してしまふ。その後、無実と知って後悔した通俊は、行方がわからなくなったわが子のために、天王寺(現在の四天王寺)で七日の施しを行なつた。

今日も、「よろめき歩く」ので「弱法師」と人々に嘲(あざけ)られている盲目の少年乞食が姿を見せる。「仏法最初の天王寺の石の鳥居此処なれや」と、有名な石の鳥居を杖でさがしあてて礼拝し、施しを受ける人々に加わつた。少年はおりから漂う梅の香に花をたずねて袖を広げて花びらを受け、通俊からも施しを受ける。

やがて通俊は、少年が俊徳丸であることに気づくが、人目を憚り、まずは少年に日想観(じつそうかん)を勧める。日想観とは、西に向かい日没を見て極楽浄土を観想することで、当時は彼岸の中日に天王寺の西門で拝むのがならわしであった。少年は天王寺の西門から極楽の東門を拝んで念仏を唱える。そして難波の海に沈む入日に照らされる難波の海の勝景、はらかな淡路島や須磨磨石までも、心の中に見るのであつたが、舞い狂ううち、あわれにも人にぶつかりよろめき転んでしまふ。

夜も更け人も少なくなったので、通俊が名を明かすと少年は恥じて逃げようとするが、父は追い付いて、二人は無事に高安へと帰つて行つた。

## 能 西行桜 (さいぎょうざくら)

「山家集(さんかしゅう)」「西行の家集」の歌、「花見んと群れつつ人の来るのみぞあたら桜の咎(とが)にはありける」に基づいて、限りなく桜を愛した西行と、老木の桜の精との交感を幻想的に描く。

西山の庵に隠棲する西行は、今年は庵の桜を花見禁制にすると能力に言い含める。そこへ下京の人々が大勢花見に押し掛けてくる。季節の移ろいに仏法を悟りすましていた西行は、やむなく人々を迎え入れるものの、せつかくの隠棲の地が憂き世と変わらぬ有様となったことを嘆く。そして「あたら桜の咎にはありける」の歌を詠じ、月の出とともに桜の木陰に臥して、夢の世界へと入ってゆく。

やがて「埋れ木の人知れぬ身と沈めども心の花は残りけるぞや」と謡いつつ、桜の陰より白髪(はくぱ)の老人が現われる。老人は夢中の翁と名のり、桜の咎とは何なのか、不審であると西行の歌に抗議する。そして非情無心の桜には浮世の咎はなく、咎は人の心にこそあると説く。うなづく西行に、老木の桜の精である翁は、草木国土皆成仏(そうもくこくどみなじょうぶつ)の理を述べ、東山から嵐山まで都の花の名所を数えつつ、春の夜を惜しみ静かに舞う(序の舞)。そして、夜も白み西行の夢の目覚めとともに、翁の姿は消えていった。

※ 事務局で許可した以外の方の写真・ビデオ撮影・録音はお断り致します。

※ 場内では携帯電話等の電源はお切りください。

※ 車でお越しの方は、京都観世会館東隣の有料駐車場をご利用ください。満車の場合は平安神宮前の市営有料駐車場をご利用ください。

主催 浦田定期能楽会

【次回予告】 6月 8日(土)

能 「巻 絹」 田中 隆夫

能 「 鶴 」 浦田 親良